

人と魚と海のネットワーク  
香川県漁連ホームページ

<http://www.kagyoren.jf.net.ne.jp/>



**JF**  
JF香川漁連

高松市北浜町8-25

TEL 087-825-0350

FAX 087-851-0699

# 謹賀新年

## 香川県漁業協同組合連合会

### 代表理事長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

令和3年も昨年に引き続き新型コロナウイルスに翻弄された年でした。開催の賛否があった東京オリンピック・パラリンピックですが、日本人選手の活躍もありメダル獲得数も過去最多を更新するなど、国民に感動と勇気を与えました。しかしながら、国内経済では度重なる「緊急事態宣言」により経済活動の抑制や外出や移動等の自粛により、景気は落ち込み低調に推移しました。11月以降、感染者数は減少し、落ち着きを見せてきていますが、海外では新たな変異株「オミクロン株」による感染が拡大するなど予断を許さない状況が続いています。

水産業界においても、「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」の適用が全国に拡大し、外食産業の営業規模は縮小しました。これに伴い水産物需要の減少、魚価の低迷等、昨年に引き続き厳しい状況が続いています。

一方県下の漁業を振り返りますと、漁船漁業では、燃油価格の高騰、魚価の低迷、漁獲不振等により漁家経営の収支に悪影響を及ぼしています。魚類養殖業では、コロナ禍で消費量が減少している状況の中、堅調に推移しました。またノリ養殖業においては、低栄養塩による本張りの遅れ等の影響で12月の生産が遅れたことにより、第1回乾海苔共販が中止となりましたが、その後の生産が順調に継続されることを期待しています。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、漁船リース事業、新リース事業、機器等導入事業を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。また、水産資源の安定供給及び漁業経営の安定を確保するため資源管理型漁業の普及啓発に努めるとともに、今後、改正漁業法に基づく海面利用制度等の運用及び新たな資源管理についての具体的実践にあたっては、十分な協議を行ったうえで推進するよう努めてまいります。併せて燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業も推進してまいります。また、平成30年2月1日より20t未満の小型漁船乗船者にライフジャケットの着用が全面義務化となっており、本年2月1日からは違反点数の付与が開始されます。自身の身を守るため、乗船の際は必ずライフジャケットの着用をお願い致します。

また、県産ハマチ・ノリ・イリコ等の消費拡大や販売促進を図る「さぬき海の幸販売促進協議会」事業は、本年も昨年同様、コロナ対策を徹底し、関係団体、県、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



## 香川県海水魚類養殖漁業協同組合

## 代表理事組合長 高野 勇

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の海水養殖業を振り返りますと、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大から1年以上が経過しましたが、収束には至らず先行きの見えない中での着業となりました。また、全国的な種苗ハマチ・カンパチの不足から余儀なく生産尾数の減産をする事態となり、養殖経営に不安を抱えるスタートとなりました。

種苗の搬入後は、台風などの自然災害の大きな影響はなく、香川県全域で赤潮が発生しましたが、大きな被害も無く順調に生育しました。しかしながら養殖業者にとって大切な餌飼料価格の高止まりや、燃油等の価格高騰が著しく経営環境は極めて厳しい状況となりました。

出荷状況については、カンパチは9月8日、ハマチは9月11日から出荷が開始されました。

カンパチは、前年より100円安い900円からのスタートでしたが、香川県漁連等の補助事業を活用した販売により12月初旬には完売となりました。

ハマチは、全国的な在池不足の影響から前年より330円高い1,030円からのスタートとなり、現在も高値安定で推移しておりますが、1月中旬頃には完売する見通しとなっております。

また、現在の漁業を取り巻く環境は日々変化しています。持続可能性を念頭に置いた漁業法の改正や、国が養殖業成長産業化総合戦略を定め、産地間競争はなお厳しくなる事が予想されます。環境面では、全国的なモジャコ採捕の大不漁や北海道での赤潮発生、沖縄の軽石被害など近年何が起こるか分からない状況です。

そのような中、海水組合としましては、本年も皆様方のお知恵をお借りしながら、消費者に信頼される安全で安心な高品質の養殖魚を提供するため競争力を強化し、商品力向上と事業効率を改善すべく、日々魚類養殖に取り組んでまいります。また、さぬき海の幸販売促進協議会と協力し、引き続き香川が誇るブランド食材であるハマチ3兄弟のひけた鰯、なおしまハマチ、オリーブハマチやオリーブマダイの販路拡大とブランド強化に努めてまいります。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体と協力しながら皆様のご期待にお応え出来るよう、全力を尽くす所存でございます。何卒、本年も倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



## 一般社団法人 香川県海苔養殖研究会

## 代表理事会長 西口 正弘

新年あけましておめでとうございます。令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当研究会の運営に御理解、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。昨年は年明けからの色落ちにより、近年まれにみる不作となりました。共販枚数で約1億5,200万枚金額で14億1,800万円平均単価9.30円で終わりました。また、昨年を振り返りますと相変わらずのコロナですがワクチンの効果により幾分良化傾向となりました。県内を含め都会でも減少傾向になり、緊急事態宣言は解除となり、景気浮揚を期待しているところです。11月になり、オミクロン変異ウイルスの出現により予断を許さない状況となりました。

さて、今年度漁期を見てみますと、育苗は10月20日頃より開始され栄養塩低下により地区によっては色落ち傾向となり、冷凍入庫の遅れが生じた浜がありました。本張りも栄養塩の状況を見ながら、12月にずれ込んだ浜もありました。第1回共販は数量不足により中止になりましたが、第2回以降は徐々に本格生産となって来ました。

昨年同様、各種イベントの中止、縮小となり本会の消費活動も影響を受け、なかなかPR活動が実施できず、また、商社訪問、着業検討会、後継者研修等も実施できませんでした。今後、コロナ感染症が収束次第再開していきたいと思っております。

最後になりますが、会員各位、関係者の皆様のご健勝と、本年海苔漁期の豊作、並びに、皆様笑顔で漁期終了を迎えられる事を祈念申し上げて年頭のご挨拶と致します。



## 香川県無線漁業協同組合

### 代表理事組合長 嶋野勝路

新年明けましておめでとうございます。令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の対策としてワクチン接種が始まり、日本の感染者数は現在のところ減少しておりますが、世界的には感染拡大が続いており、新変異株の出現など、未だ予断を許さない状況となっております。引き続き感染拡大防止対策に取り組み、一刻も早い事態の収束を願うばかりです。

漁業経営につきましては、緊急事態宣言またはまん延防止等重点措置により、飲食店の時短営業、外出自粛等が繰り返し行われ、水産物の需要減少による魚価の低迷、さらには燃油価格の高騰、漁獲量の減少等の影響を受け、非常に厳しい状況に置かれています。

当組合におきましても、高齢化による組合員数の減少や携帯電話の普及に伴う無線利用者の減少が続く厳しい状況にあります。昨年10月に第2級海上特殊無線技士講習会を開催し、32名の方が無線従事者資格を取得することができました。従事者資格の取得者が増えることにより、当組合の組合員数増加に繋がることを期待しております。

漁業無線は災害時の避難情報や海難情報、操業の情報等を一斉送信でき、航行や操業の安全、漁業の効率化に繋がる情報手段として利点があります。近年では北朝鮮ミサイルの発射情報を自動で船舶局へ発信するシステムが各海岸局に導入されており、迅速な情報発信体制の整備に取り組んでおります。また、デジタル無線機であれば、受信した各種気象情報や緊急通報などが文字で蓄積される優れた機能を持ちます。このような無線機の高機能化は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策も含め、漁業操業の安全性向上等に貢献することが期待されております。

本年も、本県の基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 一般社団法人 香川県水産振興協会

### 会長 嶋野勝路

新年明けましておめでとうございます。令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

昨年中は当協会の業務推進につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、コロナウイルス感染の第3波の中で年が明け、さらに一日の新規感染者が過去最大となる第5波に見舞われ、国内経済は自粛気運が継続し、イベント事業の中止、外食産業の時短営業や休業など厳しい状況が続いておりましたが、その後のワクチン接種推進により感染者数は大幅に減少し、規制緩和などから経済活動も回復基調になっております。

国内水産業では、コロナ禍による経済情勢の悪化から販売不振、魚価の低迷など多大な影響が続いています。新たな変異株オミクロン株の出現で第6波が懸念されており、本年も先行きが見えない状況ですが、水産業に与える影響が気になりなところ です。

また、多くの魚種で漁獲量の減少が見られ、水産資源の回復を切に願うところ です。

本協会の事業といたしましては、引き続き4月初旬から11月下旬までマダコ、ヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚種の種苗放流を継続実施し、水産資源の維持増大に努めてまいります。また、水産物消費対策事業では、魚食普及の推進が大きな課題となっており、県産水産物の食材活用を目的とした水産食育教室を開催するとともに、近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と連携し、ライフジャケットの着用推進を目的とした講習会を開催し、会員の皆様に法令遵守の啓発に努めます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置につきましても設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行い、大量の海岸漂着ごみの回収に協力してまいります。

最後に、令和4年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



## 全国漁業協同組合連合会

### 代表理事会長 岸 宏

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年はJFグループの歴史の中でも極めて厳しい1年となりました。新型コロナウイルスの感染拡大、海洋環境の変化に伴う記録的不漁、漁業用燃油価格の高騰、北海道太平洋沿岸における赤潮被害や沖縄県・鹿児島県等沿岸における軽石漂着被害などを受けて、浜では産出額が落ち込み、生産の基盤となるJFの経営においても売上高、営業利益が減少し、影響等の長期化が懸念されております。

そのため、漁業者ならびにJFグループでは、新漁業法の下、新たな資源管理の推進をはじめ、自ら改革を実践し、成長産業化を成し遂げるために、諸対策の確立を関係要路に強く要請しました。その結果、要望事項を網羅するかたちで、4年連続で3,000億円を超える予算を確保しました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

さて、本年は新たな水産基本計画の策定の年にあたります。我々漁業者は、改正漁業法に基づく新たな資源管理の推進等について、自らの課題として取り組んでいく必要があります。併せて、漁業の成長産業化と資源管理の2つを両立させ、近年顕著となっている海洋環境の変化を十分に踏まえた上で、新たな資源管理や栽培漁業を推進していくことが重要です。これらを踏まえ、我々は、浜の改革と資源管理の実践者である漁業者の理解と納得を得た上で進めていただくよう、国に対して求めていく所存です。

併せて、昨年度から取り組んでいるJFグループの運動方針に則り、新たな資源管理を前提とした世代交代の円滑化と低年齢層での自立が行われる循環型の生産構造を目指すほか、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革、浜プランの後押しなどに取り組み、浜の構造改革を実現して参ります。

今後も新型コロナウイルスとの戦いは続き、この脅威と向き合っていくには国によるコロナ対策・支援が不可欠です。JFグループでは、漁業全体が失った販売先・販売量・魚価を回復させるため、国が策定した対策を引き続き活用するとともに、プライドフィッシュプロジェクトや産直通販サイト「JFおさかなマルシェ ギョギョいち」などを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担って参ります。

また、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の問題については、本会の「漁業者・国民の理解を得られないALPS処理水の海洋放出には、JFグループとして断固反対」という立場に変わりはなく、引き続き国としての対応を強く求めて参ります。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましては、これまで以上に英知と総力を結集していただき、漁業の成長産業化に向けて、引き続きのご理解・ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

最後になりますが、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

## 第22回シーフード料理コンクール

JF全漁連が毎年開催しているシーフード料理コンクールの第22回入賞作品に香川県の主婦、片山智子さんの「スパイスまみれのオリーブハマチ」がお魚料理チャレンジ部門で農林水産大臣賞（第1位：最優秀賞）に選ばれました。



「スパイスまみれのオリーブハマチ」

第22回シーフード料理コンクールはお魚料理チャレンジ部門と、プロを目指す学生部門とで募集が行われ、両部門合わせて2,588作品の応募がありました。この中から、1次の書類審査を通過した16作品について主催者側での料理再現と審査委員による試食審査を行い、12月5日（日）オンライン表彰式にて各賞の発表が行われました。最優秀賞の農林水産大臣賞に選ばれた香川県の片山智子さんは、「びっくりしています。コロナ禍で長い間会えていない魚大好きな息子が年末に帰省できたら、思い切りガツンと瀬戸内の魚を食べさせてあげたいと思ひ作りました。」とコメントされています。